湖南紀行

十二

尊經閣文庫

須磨 細 巻之名以昇詞号之源氏の巻の三月より須磨の巻の三月迄までの事あり此四巻の外はみな巻の云まての事物語よりくさ〻ひ出す源の除名なるこの事なるべし

〇栁の巻乃末の弘徽殿の遠くさ〻り遠流なる人を定めなくもあり世をうやまうやまうの所をはなれうしろめたくもあるべし物語の古人海妙也

〇除名とハ成さるれる官位を剥奪と除く義也 河光源氏諸居 沙汰ハ仁義又世間交のなりゆきをいひ出すこと也 孟 入乃古府 称名院 古也詩三百篇ハ思無邪の三字よりこれ風雅ハ無邪心所要也

源氏物語とハ感着必衰乃幻也 て又ちくく沙汰とまり人ハ百事ハ人もとゝ也再問の問うくのこと〻若多也

世事いとゝ 細 世乃物ひゝうきことも 孟 花蔵里の巻よりこの世よりこゝひてとうろう河よりけそひゝうろう河ハ弘徽殿乃殿乃ゝて左近ゆくべさうどうゝうゝ 罪深 氏ハ遠流ゆくゝさかど定ありろうや遠国ろうろう流人を地行てゝゝづゝ次ハ流人ゝうどゝ次ハ流人ゝ 細 世乃ゝ蓬居てゝうぬべくやしゝうゝ孟深の遠塞ゆくべきことゝひゝ

世事いとゝわづらはしくなりまさるこゝろのまゝにもあらでこれもかれもあるまの家ゝよりハ稀よりこゝろ人ハ去ゝ世をうれいまはしく思ひなるゝ人もまれにいでゝ思ひなるゝ人のもとゝ

〇次ハ流人ゝ 細 次ハ流人ゝうどゝ次ハ流人ゝ

世事ハ世乃ゝ

〇桐壺の巻の巻花舎ゝ

のめまぶつゝうんるどゝ世ゝ

ゝ

も跋者わ〳〵んとそひまふこ
の次ゲハ細[illegible]紙のこゝに跋者のゑ[illegible]ハ行平卿歌をるまてのせ[illegible]又
用ゐ且[illegible]蔡牧の語言ふまりて東征せ[illegible]
古近のゑ[illegible]又野相ゑ跋後乃国へ流されし例をひく書りしかるに壁
喩一遠かゝ[illegible]五大[illegible]成〳〵一[illegible]
をいかゝりこを綴し行平ハ我と樂居〳〵
行平のゑ[illegible]叶つり[illegible]用ゐ且東征のわ〳〵
[illegible]文王の[illegible]武王の[illegible]と[illegible]の自称せ〳〵[illegible]用ゐ且[illegible]
[illegible]〳〵[illegible]〳〵 細[illegible]河[illegible]書之[illegible]明[illegible]
矢二点 滔天尚書堯典帝曰庸違象恭滔天 注滔漫象恭敬而傲狠若滔
[illegible]言[illegible]奇用又云滔〳〵滔天注盛大若漫天
[illegible]〳〵[illegible]十二日 孟人[illegible]
人[illegible]人めゑ[illegible]跋者の[illegible]
[illegible]
ゆ[illegible]めゑ[illegible]
[illegible]
或[illegible]下の[illegible]
[illegible]
わ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

右天禄四年三月十九日
落餝世号入道
二条関白頼忠女藤原導
子二条関白頼忠女藤原隆

ら御くなり
ものおりのくらけすぐれ
細まる絶く 時例の業成
ア久御く三ヵ式ア人西宮
左府のゆひ人なてるこし
くれ近のおりのすぐれ
と世ちくく但物語出
物比とた府左近の年
と遠よ踏りさり不審
南ろ乱 師 安和二ヶ寛
弘のつめまて八四十年八
うり也
こくれて 孟 ひろハ怪り
ある物くよ新る中ゆへ民
きのふく 仰 時三八世よく
れせ世ま出給くきく
思こうる也
あろ車 孟 あんとよめり
ゆ女の女ま男もう車ゑ人ま
ま小の男のすく後須まく
人よ礼ゆくもるさく
河 細代車ゑ栄花物語出
あやーのあろ車こて敏
よ文ア物ぬ佛内大臣

ろあゆくうしうゆくをありのくられま
ゆくれよくろゆくくをゆくをうゆ
くくくくゆ三ヵ日三ヵ日ろ細後江の年ゆ 細年ゆ世と二成
世東の業ゆ
てくくくゆ海つゆあくろ車のくらやに
思くくよ女のやくみくくくいくあもいと
あくれよ義とのゆゆ思れくこいとこびり
げよくくあ思くくくくくくして わゆ義の
れめくゆを あ養上のあ女く
海くゆくくくくくくくくくくくくくくる
をめゆくくくくくくくくくくくくくくくくる
ゆくひてくくくくくくくくくくくくくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しきりとこくも書かれ
ぬるよ殿結ぶこぶるを
くもりこぶひるる後代り
いまもかく
人ぶこえよ　細いんとも
ていうれぬこふふ
暁古あれんをあり
奥入八えようくるれさ
俗作の歌こ意や　されと
とん人もこの具年
ゆでえよいえれいむよ
さいれてんひこれよる
ぐくこうかいを物語
明あれば歌あり
細三月末の条紀ひ
今　が源の京とこれ
まふ人こと元六日とえる
べしそれ元三こうの作を
ふりしたりこ明云左近三
月元上日しるよあり

此前よりこくもせのて、祖語ゑるこ
結人ふりはけよこよるう西びあ
細養の上の女房　盃源の
紀之のこ　が源の
人ふれど　義と
るよ、とりとこ
のそれとりまこ
こりまるなるべし明あれば歌
先結よ貴殿の用いこかて
をやうくこうるて
ものもころこ
こうこいこ
りあくこらまこけ
まこらんよ
ふよこうるこしどこりなど

細養の上の女房　盃源の
が源の

細養の上の女房　盃中納言
が中納言

が詩こし春事消ぞあ
が源の

歌中納言の系をなりとこんとあや
細源の侯
つまこしあけくあこ
あこんここ
きこ世をこ
しこ源の後梅
月元上
が中納言
のこ人いりのこ
が中納言
のこ宰相のこ
ここ雪こ
まこ
めこ
なこ
こ
こ

歌こ
細世を
ひ結所也　が
こ人こ
こ
細養上
の上世よ
盃養上
こ
こ
こ
細々雪の
世々雪に
こ人こ盃々雪の
こ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の陣ゝ多須
ひとやごろうてやい
細谷三郎世平 呉ゝ引義
てのこやくわんせうて い
ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ここをかしてうつくし
文集　細白樂天が文集也
花白樂天の詩賦をあつめ
めしうつ七十二卷を長慶
集とつけり　長慶元年
中に集てうつ給也が昔
唐人の詩集はかく
もうつくしくもうつ
八段代よりうつくしうつ
琴ひきけり
白氏文集草堂記は傑
琴一張とつるうつくし何者

巻かしく　細巻しいなる巻の
物也　伊に領のもつぐ乃
ゆんそ也が桐帝をぐ
こをあ紙ーうつる天紙の巻
こうつくし
少紙言を　孟巻の紙四が
紙をを二紙四ゆえこめる
をり

中務中納言　細中務のつぼ
紙人くこ二条院よりほの中
のくせが巻の人とも名
別く
れるをこれりてをーをく
ぬ中納言中務ほのぼのと人
うれぐうくうつ

書物　孟省略
文集をいれうつこと
琴ひきけり
花やうるはしけれひるぐうよぐ紙
ど花やうるはしけれひるぐうよぐ紙
ぐのやしの山ぐけかそりてるく紙さ
ゆ人ぐうつうでめうけのくしを
孟領一紙
みのくいりうこうこ
細巻上之
内左近将ぐ細中務ぐ
うぐ紙をうみきうつ
さるべきをぐの巻かく
孟中巻を紙深四のく
ゆ四の巻ぐ
ゆ四の巻ぐ
をを紙をれうみのくうつ
ぐのるぐくみうくまぐが綱ををうつく
くをゆよくうこうこうれいをくうこを家

具うくうくてのくう
孟形ぐが巻人作をうくうくうこ
ひめぐくうぐけうこの中勢中納をなどやう
のくぐうれるをけりてるうみくくうて
まけるを紙くうこうぐうこうれるをうこうこうて
細伊の河こ
孟をうくけうくうこいのうちありてこの世よ
人くうるやうくをあうくんをなうけへと思うん
細こうこうこ
人くこうこうくうくへとのうひて
細巻初うこ
をうこうこうのかくくをうてさうこうべうやうこを
細巻初うこ
うれぐくうこうふうう志のいめけうこ
ゆ風流かうこうこ
ゆ風流かうこうこ
ゆ
ゆ
ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二条院御所葬送七月八日也、八日のゆふべ雲居しつゝ所へおくりまゐらせ
[illegible]
けて月のかげ[illegible]
やしのかげ[illegible]
[illegible]

孟冷泉院也

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひいらもよ地ひとこやてこそえぞつ
ぞけてこせこうまこそね
孟原左方 桐壺のうち
別しよりうきこそいつこそみしとまこと
四 曉方 月まちいでて
はやきれる月まちいでて
世のうそ
ぞ世のうそ
ぞ世のうそ
ぞ

拾めでたうさうさ人
孟子道の長さ人より深の
小寺と感ぜらるる
おつまうしこれあり
孟子後よれ院の時と雖
おのやうよ出家して
うさうりをさまるて
十善の帝王ゝとも乃
心なり
ゝ乃のごとをなく
ゝ
が深のれそのおそのの
なり師をより帝王も
崩後つにあり
をもとをあつる
法墓より何の法者
もみられて
れそらは
細古墳何世人不識姓
興名化作路傍土年
く春草生ス　白樂天
うくれるんくんて
ゝ

拾めでたうさうさ人
よめでたうさうとうとまつる山よまうで
そしておつまうしこれあり
のやうよ出家して
せよ
しきわざなりけり
くゝ
うけ
ゝ
うさうしんせよ
道の
ゝ

細
の
ゝ
ゝ
ゝ

うんとこの歌は河内の国の山ごろもとて伊勢の山里にこもりゐたまふ山賤とこそ
[illegible]
五遠之五月の末又は五の
月よりあそばしたる
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

をぐめらてくこ地のひやこ出くのふ
京人出しこて後二条流へこてまつり
ちとと入道の文ふはうこもやう後こ
もくこうこ細こと言の女房こ
れこりこやあ月
松しまのあまけりこやもいるこん
の海の浦人こかうこ後い海し後こぬ
文の海こ第八こ
細見こ
月表
月の女房海のんこ
細見こ文の新こ
中なりよづれくこるまりこ
こはまこりてこん間侍のこれれこ
よれいの中細この乃ふこてこの
やこて中なりよづれくこるまりこ
の世ふこまこ
こりすこへこそここはつけても
海の浦けこるめこゆこ

のこ人をこやここここの中は勝へのふ
こりむ海の 細 海の方こりいこりむこゆこ
中納この方へのふこれば人もつこふこ
ふり師 勝の方へ乃寺也 孟こ海こ
こんここ
敷ふこ 細 殺仕のに
こむ也 唄こ乃こりこ人を
こ大敷こここ海こ
の一勅 通西こ
祝こ大敷こここ海
こりこりここ

こ海こ
こ海こ
こ海こ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

れかうこうなり
ちくく宿は遊女れど 細 世間の世の次ぐなどいふこと言うち学よ八程ちくこと三五うれど物
の朝をきこうしく 死 別くはいろあひとそんとそうこん眼あり世のいすちと見軒
ゆまでとうこうこうあり
入乃のこやみも 孟 えこうこ
者つなのはうこ お冷の陰
ねえとほをちひまはなよ
あつれのかりるくこ

ものこころこるものてき
幾ほ人者つなのはんりのて
こまりぬこてはるこれども
世と保ものひーとこ

ろうりようこ世の
細 保の素通のうとは世
このひあくまりこ
人ごと人言色 孟 これ程
こ保ろうをがのえんと
まろ人の口るれど友と保
ものはろどいてぬなり

やこめるづりの 細 こうか
のとふてこころこ
えやこよひのここり
おつひ物こうきてやこ
めるづりの人乃はるむ
けすこづてよこてわ
ちうちりし いのひこ
よすこせもこころこ
我は角海保ら諸思ど
ぶ保もちひあるりがの
友これんのひこうこふま
うせどちひあて人のい
ひ物こうきてやこめ
こ表物のんむけうれ
しいるあ一仲あ後年
竟は五年 後うや 物の愛
通こう

表よ表ーうも 細 まる池る
こーりこうこやこ りうるる
商雲も保を表よ表と
ーこーこ

陸こうこうをやこうこ
表池やくと後のまるこり

細 人と保
のはる
晴
細 人の見 孟 奇八
のこうもいて
表こ
陸こうこ
孟 勝月
るあまもちりこ
表
陸こ
うこれこうこあまこよつむ表なれど
ゆうこうこうよりこそるこはこうこと
どといえなんとどこりいこうこて中略

[illegible] 細 [illegible] 陸やくと [illegible] 多の [illegible] 後合
[illegible] 曉 [illegible] 勝の [illegible] 中納言の [illegible] 原の論語乃 [illegible]

[illegible] 海人 [illegible] 海人を [illegible] 雲ぢ [illegible] 晴 [illegible] 師 [illegible] 海人の [illegible] 中納言の [illegible] 原の [illegible]

[illegible] 細 [illegible] 聖廟も [illegible] 孟編 [illegible] 細 [illegible] 孟 [illegible] 細 [illegible] 孟 [illegible] 細 [illegible] 孟

為誰個長齊終不被
云々
あくこの花は　細人の歌
のんいやこはあくねども
とふよいかられるこやし
うり　女房のもりは
家上のもりんりしてき
こせ　女房はこのりさ
人くも伝る面と恩愛
のもよは支妻の中一位
おりうるあく
うる人　細世使あるこ
物深うりは息子へ人を
り　伊勢しりもを生
は役あるこ

とうるしくれど　細伊勢物語　そのりうこ　細伊勢物語　あひうてん
細但文冊あるませはんや　ふんやこ　こ　こ
こりさんで　細しまへ　ぶ　ろめこう
はあくこと　細なり　ぶ　こ　こ　は中　こ　こ　こ　た
はまでこれ　細業平池に物語
りのは毒伝と今ひんこ
はうこうり　細のまこれよりこしてぐり
細六条のは息子へこ
うの伊勢の文へをれつこひありこうれ
うをあうこんぶるひまつまりあこうこ
ぬこと　細は息子をかりこ
ぐ　こ　こ　こ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よけてみるまでもかれぬ　細　我今藤の月こそ色藤屋を年月八我ゆえら
かりとこそ花ひらも今八我身の上なりろうと色仲秋も老と老ふんろう
旅客とうればくよめり　花とこよ八仙境をいろ表紙のうりもかうよりも
て者世といろ　盃屋の旅のやめし出てもそ色なれいくくしまるつ造
とこよ出て　盃屋の旅のやめし出てもそ色なれいくくしまるつ造
ぐく原を行ってあるとく　仲つ〜ろ八屋のつ〜ろれる変をろくぶ赤八原又を
傷寒ぐのろうろ　晩屋のろ
ともまぐりて　晩屋のろ
かれ月ろ変をまぐりてく八
いうろんといふ我身の
変をまぐりてろんろ
ろく明日明ろくまぐと
海とるまぐりてく
ぬやのひろ晩ふ変紀伊寺の貴之明
盃又よ陽てろ行れ
仕やまく　細　海よりれ
ちろひまろひく　仲原
よ志芳の人ま赤しよ見
より
こまひ八十文歌　初てハ詩
寄義経の出格もわん
よ。ふてろりまちまろ
はいろまろてハを

つくよをろ
してハいうよ作ろまとりつふ　地やのひろ
よ物そ心ぐ
ろ物そろ
ろ
ろ

九重を雲ゐやつくるの奇ふこと絶一時のるく孟さらさの奏のすく帝のゆをを
源のとを出をそく 師 うれ九月のるこさ日の月やうくうゆとあり月まうり
て源のをひ出のふこや
むう地ふうるみど 俳 孝よむういまの山猫宿をくふけうこうも涙よりをようう
みそまうりのみてとあり源の流罪は兎角の讒えのゆくれでうて帝にうう
えはるくてるのりくなりひまつくをまうしを衣とりの心え 細 聖廟之御詠也 去年必夜
恩賜の御衣 天よの山是つよしまうしを恩賜御衣今在蓬萊特毎日拜餘香後集 おを八聖廟宰
侍清涼秋恵詩篇獨斷勝恩賜御衣
府をて去年九月九日の裏よ秀逸の句を作り給て勅綸よ山衣をのりしを後月をて下
月をのひて出て作りまる作く源氏もをくく山衣をのりを作ひーるわるまんこれ
を地ぶ一出ーるく 細 源の陽
山ぞこんまくこん
衣を湯事あくぶーを地猫
の例ふく去むーくやそ
まるよにかる歌あまを
和あり 晩 ふ給りまを
ふ一朱ーを 給りまり
とはみしくり 明日
うしのこ——地りかしを
細 職分ふうの分よりを
ても上へ根いかをくされ
どを時とをくいをめを
ことをあるかりを左
とハをり 晩 左左とうし

よありとぶ一つへをぬ山そこ。まをに
分をるををず。ををををよをを
源氏
をしとのをををよ猫ハ地りわくでひ
ぶりみぶをとぬを紬れそのをろぶ
孟五節の文数廣をを
絶ハのをりりけるぶりう多いひをくひを
細ををのをもあるで
めぶりをを地をりけ見ぶ。ハのをこは舟
ををの山ぶ。源ぶをひよをうををーつ
遥遥拝奉

一篇よをくをりよハあくで源衣を分よを
をの比大蔡 細 五節の文 花萩里奏よみ芳よ源氏めひ給をりみくをり。又の紅をて
上源をるを 所 職員令曰太宰府帯筑前國帥一人掌祠社戸口簿帳字養
百姓勧課農桑貢挙孝義田宅良賤訴訟郵驛傳馬烽候等之事 記之
大貳一人掌同帥下畧 職原抄曰寶亀十一年勅大宰任限為五年 凡當府都
管九國二島別帯筑前也 釈委

佐ぶの猿池をりを
をりをよ源をりをもをりをを
きバんををよ和をてををすをを
けバをひをりをををりををひををめを
ちは毎のをりををりををりををを
ををりををりをてををりをををハりををひを
ををりをも口をりをよをんの声風よ山
ををりををりををりをををりををの海
人のを源ぶ地のをのんぶをををりあ
山めをありをぶりをれをををりを。

つをて引をる
毎月細を引ををり五
節をぶをりををを
をりを
ををりをの海
源ぶの地をぶりを仁藏
毎月をりを源のをりを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
伝考辨 日本紀細動
世動動をそう明 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

りつうつも　細　和漢衆罪
すぐのたぐひの例とて
暁月　河野相公在納言
菅家西宮左府帥内大
臣以拔群賢才無罪
配所之月二人不可
勝計

つくしの国へ
暁　相国の尼公の法へ
めとりつくせんこと
を歎
給せうとてとりめ
ぐらす処に
尼公とかくして
細月
暁　相国の衣
の文わせたりの大納言入道の
女の幸ありはまで
例をとり
細
桐壺の
衣と
孟
大臣　入道播磨守　明石上
梅宰大納言　桐壺更衣

くしてあるめぐしてうれしてもあるか
知　入道の
よいほのかにめぐりてなりとうをいとくつ
やくつよわうことにいりつうつもわ
花紅葉をうつ
みぐしとくせよとぐれなるよごとも
人よりにぬあるうの人のうるしびあうと
すらつよわしく給ふ
ことけうとも
相国衣のうつ
とりてこやづくよ出しまうしに
入道の御方
つくれてこめくし給ふこと
のうるうる給ふ人のそねを
びるうるうる給ふ
うるうるこの衣のうつ
うるうるこの衣のうつ

わたくしのうけうる世をとがめ
こゝろ
孟　順ふ上も人うこと
ぐさ
人よりうるうる
海のもとも入
若紫の衣うつ

けうとくうるこゝろをうつべ
きうのうるうるものれうるうるあ
細
のうるうるうるうるうるうるうる
のうるうるうるうるうるうるうる
うるうるうるうるうるうるうる
げよやむごとなき人よりうるうる
細
けうるうるのあるうる海をうるうるのよ
やりひうるうるうるうるうるうる
うるうるうるうるうるうるうる
ばうるうるうるうるうるうる
とうれうるうるうるうるうる
みも入うるうるうるうるうる

年ごろ伝授奉りて
為業上の世をうるより

みしらぬ春の梅
おなじ人ぞとも見えて
とかうしまもかの
つゝ

二月廿四日のより
細川殿年の比をうとて
しおりて

後の世のうさ　細川殿帝を
世ゝ帝なれどもうちの
ゑと朱雀院をうれば後
しても後のうれば後
こゝろ
りくれりくを　細
れば世の比
なれば

ひとづてさて、年よりてび後者よりう
てうせうり、神の世をうをそんをれば
五条ゝ世上のうく
ゆゝうりうを海中に年　細川殿
うりうく
日ごろつれなくなりよう人し若ゝの梅
かのようをうをして、そゝの気こう
らくれうよりうびのゝ世ゝ出られて
うるうを語ありく世をうり二月廿四あ
まりいあり年、嘉をうれし世ゝ
うし人ゝのかりうを海なでいとひ
しく南殿のさゝ人ゝ墨よりめり
一ゝ年の花のえんよ流のゝうれうの
朱雀院を年ゝ　細
人のうをうよりを海めりそうりく

世ゝ人ゝ
伝世
いゝうを
ゝうをゝ
よ大殿の三位中将
人ゝのいとしけまで
りてまゝど世中いと長よりう
うをゝ
へゝのゝうりゝ
いゝをんとゝ
で後
中将の後をえ
みゝ
ゝ

ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

越鳥巣南枝　胡國の歟也仍此風よりあれハ旧里とそこひていでこそかり　細胡鳥
嘶北風に故郷を思ふあり　愚按この詩文選よりあるなれ　然鳥依南枝とあり
孟一説の名馬より
孟此篇ハ三位中将のまつ
せられしえ　初此篇ハ中
将の作なれ　ハ
き篇の名あり　など
ぐ　ものとあれ　ハ
る篇　を　作
る　所　ハ
中将へ
せられ
こ
ま　中将の作ハ
あ　中　て　品
ど　ハ　篇　ハ
ら　人の
や　ま
ま　細三位中将の詞
書ちく　細　ハ
と　て　ま
ま　ま　ま
ま　ま　ま
ま　ま

不祥 れ秀

軟障 細ついたち 清くさの

ものやくかりあれし 俗ものは

ハぜんじやくしとする 明河

ぜーとす 俗 ぜんぜ

ぜーとす 俗 ぜんぜ

ぜーとす 俗 ぜんぜ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よ三年留守せ。日本紀よみくさり。又時代武尊東夷を伺ひ給ひ相模の國
より上総の国よ渡まひ給ふ海神ども〻出て風をおこし
海水流れんとせ〻に御妻弟橘姫の海神よ入ひて先居まろ
うとすれば三人ごう、和明えへのうりの文書あるとぞ端ちうこし